

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会

代表理事 津山直子様

謹啓 向春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびは産経新聞に掲載した曾野綾子氏のコラムにつきまして、文書をお寄せいただき、拝読させていただきました。

ご指摘いただいたコラムは曾野綾子氏の常設コラムであり、労働力不足と移民についての曾野氏ご本人のご意見をひとつの見解として掲載いたしました。コラムについて、さまざまなご意見があるのは当然のことと考えております。特定非営利活動法人アフリカ日本協議会様から寄せられたご意見、ご批判は真摯に受け止めており、曾野氏にもお伝えさせていただきました。

2月15日付の産経新聞の紙面に掲載した通り、私ども産経新聞は、一貫して、アパルトヘイトはもとより、人種差別などあらゆる差別は許されるものではないとの考えです。

曾野氏は長年にわたり、人道支援活動などで南アフリカをはじめアフリカ諸国を何度も訪ね、現地で生活する人々と深く交流し、多くの方の話を聞いておられます。コラムはこうした曾野氏ご自身の体験から、生活習慣の違う人同士が一緒に住むのは難しいという個人の経験を書かれたものと受け止めております。もちろんアパルトヘイト政策を日本で行うよう提唱したものではありません。

ただ、このコラムを掲載したことで、不快な思いを抱かせてしまったことは、私たちの望むところではなく、大変遺憾に感じております。抗議文をいただいた南アフリカのモハウ・ペコ駐日大使にも、こうした考えを伝えさせていただきました。

繰り返しになりますが、産経新聞社はアパルトヘイトや差別は決して許されるものではないとの考えです。今回のご指摘を真摯に受け止めるとともに、感謝申し上げます、今後の紙面づくりに活かしていく所存です。

謹白

2015年2月20日

産経新聞社広報部長
村雲克典